

2022年2月9日

若者に夢と希望を与える次世代リーダーを表彰 「第13回若者力大賞」表彰式のお知らせ

公益財団法人日本ユースリーダー協会（本部：東京都港区、会長：永野 毅、1969年設立）
（<https://www.youthleader.or.jp/>）は、「第13回若者力大賞」表彰式を2022(令和4)年7月21日
(木)に開催いたします。

「若者力大賞」は、若者ならではの使命感と行動力をもって、社会のための貢献活動に取り組んでいる次世代リーダー、及びその支援者（個人・団体）を表彰しています。
次世代育成に対する社会的な関心を高め、同時に次に続く若い世代に夢と希望とを与えることを目的として、2009年度からスタートいたしました。今回も素晴らしい活動をされている4名と2団体の受賞者の方々を表彰いたします。

是非、会場にて受賞者のスピーチをお聞きいただき、彼らの活動を広く社会に伝えていただけますと幸いです。

公益財団法人日本ユースリーダー協会 理事長 隈丸 優次
第13回若者力大賞実行委員会 委員長 熊澤 匠

「第13回若者力大賞」表彰式

日 時：2022(令和4)年7月21日(火) 18:00~19:40

会 場：六本木ヒルズ・ハリウッドプラザ5階「ハリウッドホール」(東京都港区六本木6-4-1)

式次第：1. 開会挨拶 2. 審査委員紹介 3. 表彰(受賞者スピーチ) 4. 閉会挨拶

開催形式：会場は座席の間隔を空けて感染予防を図ります。YouTubeライブ配信も行います。

主 催：公益財団法人 日本ユースリーダー協会

協 力：学校法人メイ・ウシヤマ学園 ハリウッド大学院大学

(受賞者につきましては、添付のチラシ及び当協会ホームページ

<https://www.youthleader.or.jp/youth-awards/13th-announcement/>をご参照ください。)

当日の会場での取材をお受けします。会場の準備の都合上、取材は事前に登録をお願いします。

下記メールアドレスまで御社名、人数等をお知らせください。

公益財団法人日本ユースリーダー協会

〒105-0002 東京都港区愛宕 1-6-7 愛宕山弁護士ビル 8 階

T E L : 03-6441-0581 F A X : 03-6441-0582

メール：day@youthleader.or.jp

(担当：長・安部)

参考資料

■ 公益財団法人日本ユースリーダー協会について

国際的なユースリーダーの育成を目的に1969年に設立。次代を担う若きリーダーの育成・支援・啓発などの事業活動を通じて、若者が活躍できる社会づくりに取り組んでいます。

◇ 団体概要

名 称 : 公益財団法人 日本ユースリーダー協会
代表者 : 評議員会会長 永野 毅 (東京海上ホールディングス株式会社取締役会長)
理事長 隈丸 優次 (外務省 元駐カンボジア大使)
設 立 : 1969年7月1日 (公益財団法人移行: 2012年4月1日登記)
所在地 : 〒105-0002 東京都港区愛宕 1-6-7 愛宕山弁護士ビル 8階

■ 「若者力大賞」について (下記の3賞を表彰)

< 若者力大賞 >

下記両賞の中から、特に顕著な活動成果をあげている個人又は団体

< ユースリーダー賞 >

若者ならではの自由な発想と強い使命感をもって、社会的活動に取り組んでいる次世代リーダー

< ユースリーダー支援賞 (個人部門・団体部門) >

若者の持つ才能を見出し、育み、伸ばすことで次世代リーダーを育成する優れた支援者、団体

第1回～第12回の「若者力大賞」受賞者 (所属は受賞時)

(敬称略)

第1回	M I S I A (歌手)	田中 将大 (プロ野球選手)
第2回	山口 もえ (タレント)	栗城 史多 (アルピニスト)
第3回	村田 修一 (プロ野球選手)	
第4回	平原 綾香 (歌手)	
第5回	宇佐美 吉啓 (パフォーマー/EXILE USA)	
第6回	道端ジェシカ (モデル)	
第7回	倉木 麻衣 (歌手)	
第8回	ジギャン・クマル・タパ (駐日ネパール大使公式通訳)	
第9回	サヘル・ローズ (女優・モデル)	
第10回	秋本 可愛 (株式会社 Join for Kaigo 代表取締役)	
第11回	高濱 宏至 (NPO法人 Class for Everyone 代表理事)	
第12回	古井 康介 (株式会社 POTETO Media 代表取締役)	

◇ 審査方法および選考基準

自薦他薦による応募の中から、外部有識者を中心とする審査委員会によって選考される。選考基準として、< ユースリーダー賞 > では社会的影響・波及性、将来性、行動力、陰徳の精神、ユニーク性の5つの項目、< ユースリーダー支援賞 > ではそれらに加えて社会教育・キャリア支援の各項目が設定され、客観的かつ厳格に審査される。

< 若者力大賞 > は両賞の中から特に評価の高い活動、実績をあげているリーダーに授与される。

◇ 審査委員 (敬称略)

永野 毅 東京海上ホールディングス株式会社 取締役会長、当協会会長 (審査委員長)
中村 公一 山九株式会社 代表取締役会長、当協会副会長
山中 祥弘 学校法人メイ・ウシヤマ学園 理事長
橋本久美子 橋本龍太郎元首相 令夫人
高桑 早生 パラアスリート、第7回若者力大賞ユースリーダー賞受賞者

第13回 若者力大賞表彰式

■ 日 時：2022(令和4)年7月21日(木) 18:00～19:40

- 主 催：公益財団法人日本ユースリーダー協会
- 協 力：学校法人メイ・ウシヤマ学園 ハリウッド大学院大学
- 会 場：六本木ヒルズ ハリウッドプラザ「ハリウッドホール」
- 参加費：無 料
- 申込み：日本ユースリーダー協会ホームページもしくは下のQRコードにてお申し込みください。

若者力大賞とは

自由な発想力とチャレンジ精神をもって社会的活動を行っている次世代リーダーを表彰する制度です。

第13回 若者力大賞受賞者 (敬称略)



福澤 知浩

(ふくざわ ともひろ)

1987年生まれ
(株) SkyDrive 代表取締役社長

『空飛ぶクルマ』で100年に一度のモビリティ革命を目指すベンチャー会社を率いる



人が乗れるドローンを2025年の大阪万博でのサービス開始を目指して開発中。解決が難しい問題を自分の回りの仲間を巻き込んでどんどん解決している。応援団が国内外に広がっている。



垣内 俊哉

(かきうち としや)

1989年生まれ
(株)ミライロ 代表取締役社長

バリア(障害)はバリュー(価値)に変えられるという信念で株式会社を運営している



幼い頃から車椅子で生活して、「障害があるからこそ出来る事がある」という信念で株式会社を設立した。障害者や高齢者が一歩前に踏み出せる社会を創っていきたい。



山本 昌子

(やまもと まさこ)

1993年生まれ

ボランティア団体 ACHAプロジェクト 代表

児童養護施設出身者に成人式の晴着撮影を通じて『生まれてきて良かった』と感じて欲しい



児童養護施設を卒園後、成人式の後撮りを先輩からプレゼントされてとても嬉しかった。この体験を他の卒園者にもしてもらおうと晴着撮影のプロジェクトを始めた。



羽村 太雅

(はむら たいが)

1986年生まれ
手作り科学館 Exedra 館長

大人や子どもに世界観の革新を促す為に、科学コミュニケーター事業を広げようとしている



地域に根ざした小さな科学館を開館した。人々の科学的知識や考え方をアップデートすることで、社会的課題の解決に繋げて、今を生きる喜びを実感出来る社会を実現していく。



NPO法人 Peace Culture Village

共同創業者：メアリー・ポピオ
(Mary Popeo) 1992年生まれ

広島原爆ドーム周辺で『平和』を次世代につなげる活動をしているNPO



ボストン・カレッジの学生の時に広島を訪れ、被爆者との対話を通して平和活動が「自分事」になった。次世代のピースリーダーを育成して世界へ平和を広げる活動をしている。



NPO Glocalland

代表者：大見謝望
(おおみじやのぞむ) 1996年生まれ

離島やへき地の医療格差に真正面から挑みつつあるNPO



全国の学生や医師などがオンラインで集まった。離島で活躍する医療従事者に取材して紹介し、島民と現地の中高生や関心のある学生を繋げている。どこでも笑顔で過ごせる社会を実現したい。

【審査委員・敬称略】

- 永野 毅 東京海上ホールディングス株式会社会長・当協会会長
- 山中 祥弘 学校法人メイ・ウシヤマ学園理事長
- 高桑 早生 パラアスリート・第7回若者力大賞ユースリーダー賞受賞者
- 中村 公一 山九株式会社会長・当協会副会長
- 橋本 久美子 橋本龍太郎元首相令夫人



公益財団法人
日本ユースリーダー協会
DEVELOPMENT ASSOCIATION FOR YOUTHLEADERS

ホームページ



申込フォーム



〒105-0002 東京都港区愛宕1-6-7 愛宕山弁護士ビル8階
ホームページ：https://www.youthleader.or.jp/ e-mail：day@youthleader.or.jp

公益財団法人日本ユースリーダー協会「若者力大賞」過去受賞者一覧（敬称略）

2022.2

(1)「若者力大賞」……下記3賞のうち特に顕著な活躍が見られ、今後の活躍が期待される個人・団体			
第1回	MISIA	アーティスト	歌手活動の傍ら、アフリカの教育支援ボランティアに積極的に取り組み、多くの若者に影響を与えている。
第1回	田中 将大	プロ野球選手	少年野球教室などを通じて子供たちに夢と笑顔を与えている。
第2回	栗城 史多	アルピニスト	エベレスト登山の挑戦を通じて、多くの若者に夢と感動を与えている。
第2回	山口 もえ	タレント	タレント活動の傍ら、障害児のアート活動を支援している。
第3回	村田 修一	プロ野球選手	自身の経験から、未熟児集中治療室NICUへの支援・広報活動に地道な取り組みを続けている。
第4回	平原 綾香	歌手	新潟中越地震、東日本大震災、一貫して歌を通じたボランティア活動に取り組んでいる。
第5回	宇佐美吉啓	パフォーマー	「ダンス」を通じたユニークな活動・生き方が多くの若者や子供たちに勇気を与えている。
第6回	道端ジェシカ	モデル	モデルとして活躍する傍ら、国連UNHCR協会の活動に参加し、ブータン難民キャンプなど多くの難民キャンプを訪れ、実態を広く伝える活動に取り組んでいる。
第7回	倉木 麻衣	歌手	音楽活動と並行して、環境保全、災害復興、教育支援など、地球規模でさまざまな支援活動に取り組んでいる。
第8回	ジギヤン・クマル・タバ	かながわ国際交流財団職員	「ネパールと日本のかけ橋となること」を自身のミッションとし、震災を経験した両国の子どもの交流を図るため「たまごプロジェクト」を立ち上げる。
第9回	サヘル・ローズ	女優・モデル	イランで孤児院生活を体験し、児童養護に取り組み、施設養護から家庭養護への社会的受け入れを呼びかける。
第10回	秋本 可愛	Join for Kaigo代表	人の人生の輝きを最後まで支えるために介護支援に取り組み、若者による介護リーダーを育成している。
第11回	高濱 宏至	Class for Everyone代表理事	途上国の教育を支援するために太陽光パネルとパソコンを贈る。
第12回	古井 康介	㈱POTETO Media代表取締役	政治を一步先のインターネット社会に連れていき若者に身近なものにしている。

(2)「ユースリーダー賞」……若者ならではの自由な発想と行動力によって社会的活動に取り組み、同世代に夢と感動を与えている20代、30代（※第4回から制定）			
第4回	福島 千里	陸上競技選手	小中学生を対象にした陸上教室を開催。実技だけでなくスポーツを通じた成長を教え、次世代の育成に情熱を注ぐ。
第4回	向田 麻衣	NPO法人代表	ネパールで、化粧を通じた女性のための自立支援に取り組む。
第4回	蛭間 芳樹	会社員	会社勤めの傍ら、防災塾など様々なボランティア活動を立ち上げ活躍している。
第5回	税所 篤快	e-Education Project 代表	バングラディシュの貧困地域で、教育を受ける機会がない子供たちのために、優秀な教師による授業を収録し、DVD授業を実践。進学成果を上げる。
第5回	玉城 ちはる	シンガーソングライター	音楽活動と並行し「自身にできる社会貢献活動」として、アジアからの留学生を自宅で預かるホストマザーを実践。
第6回	阿部 真奈	大学生	高校1年生の時に東日本大震災に見舞われ自宅と家族を失う。女川さいがいFMでアナウンサーを務め、避難所や仮設住宅などで町の声をインタビュー。
第6回	慎 泰俊	NPO法人代表	大学院卒業後NPOを設立。貧困の撲滅を目指し、スリランカとカンボジアに自ら金融機関をつくってマイクロ・ファイナンスを行っている。
第7回	高桑 早生	パラアスリート	足の切断というハンデキャップを、むしろバネに替えて、パラアスリートとして世界に挑戦。その姿子供たちに伝えて勇気を与えている。
第7回	松中 権	NPOグッド・エイジング・エールズ代表	自らLGBT(性的少数者)として悩み、社会や家族から孤立することなく、誰もが自分らしく暮らせる社会の創造に取り組んでいる。
第8回	織田友理子・洋一	NPO法人PADM 代表	遺伝的筋疾患である「遠位型ミオパチー」と診断され、患者会としてNPO法人PADMを設立。その活動により厚生労働省より難病指定を受ける成果を上げる。
第8回	花柳 零臣	日本舞踊家	日本舞踊の枠だけにとどまらず、モダンバレエや和太鼓とのコラボで、日本伝統文化の普及に尽力している傍ら、小中学校で日本舞踊を通し礼儀作法を教える。
第9回	堀江 敦子	スリール 代表	仕事と子育ての両立を体験させる「ワーク&ライフ・インターン事業」を展開。大学生のうちから考えることで将来のキャリア形成に役立させている。
第9回	矢田 明子	コミュニティースカンパニー 代表	患者治療に携わるだけでなく、日常的な健康相談、街中での見守りなどを務めるコミュニティースの体制を各地に広げ、育成している。
第10回	阿部 恭子	NPO法人理事長	日本で初めて犯罪加害者の家族を対象にした支援活動に取り組む。被害者支援はもちろん大切だが、被害者がいれば、そこには必ず加害者もいて家族もいる。
第10回	市来広一郎	NPO法人代表理事	生まれ故郷の熱海の街を、地元の人々と多種多様な人々が集いあう新しい街の魅力を創出。地域おこしのモデルとなる活動を続ける。
第10回	グリス・デイル・ハリー・ジョシュア	社会福祉法人公寿会職員	カナダから日本を愛して来日し定住。自身が車いす生活者で、日本のバリアフリー情報を海外の観光客向けにサイトを立ち上げて提供している。
第11回	矢島信男・野村真之介	お笑いコンビ「オシエルズ」	「人を傷つけない笑い」でいじめをなくすために、教師活動をしなが芸人活動を行っている。
第11回	石井 彩華	Light Ring代表理事	全国の若者を支える自殺予防ゲートキーパーの養成・支援事業に取り組む。
第12回	鶴田 七瀬	一般社団法人ソウレッジ代表	日本の性の課題に性教育を通じて取り組んでいる。
第12回	山崎 聡一郎	教育研究家	法教育を広めることで複雑ないじめの問題の解決を目指している。

(3)「ユースリーダー支援賞・個人」……若者の持つ才能を見出し、守り、伸ばす事で次世代の社会的リーダーを育成している優れた指導者			
第1回	横山 幸雄	ピアニスト	子供向けコンサートなどを通じて青少年の情操教育に尽力。
第1回	廣田 和子	教育者	若者の留学支援に長年尽力し、多くのリーダーを輩出。
第2回	橋本 昌彦	シンガーソングライター	「若いお母さんのためのラブソング」など若い世代への応援歌を多数歌う。
第2回	家本 賢太郎	会社経営者	障害者としての苦難を乗り越え、ダイバーシティの推進等を通じて、国籍にとらわれない若手リーダー輩出のため精力的に取り組む。
第3回	日向ひまわり	講談師	小学校で講談を取り入れた歴史授業のボランティア活動に取り組む。
第4回	安岡 定子	塾講師	安岡活学塾講師。論語の素読を通じて、青少年の健全な育成に尽力している。
第6回	岡本 正	弁護士	東日本大震災で被災者の相談内容およそ4万件を解析し、救済のための現行法制度の不備をあぶり出し、新たな法制度の立法化に取り組む。
第7回	池本 修悟	社会創発塾代表	東日本大震災で理論に基づく社会運動を多くの団体と実践し成果を上げた。若い世代に、Social Innovation への挑戦を呼びかけて指導している。
第7回	原田 謙介	NPOYouthCreate代表	20代の若者たちの政治への関心と、投票率の向上を目指して、若者と政治をつなぐさまざまな活動を企画実践し、意識改革の機会を与えている。
第8回	藤沢 烈	一般社団法人RCF 代表理事	東日本大震災復興に向けた調査を行う団体としてRCFを発足。地方創生の制度作りにも尽力し、国から100名程度の30歳以下の若い副市長を地方自治体に送った。
第9回	小杉 周水	音楽家	生まれつき目の障害があり、育児と音楽を組み合わせた「育音」を始める。自ら障がい者施設などを訪問し、子どもたちに夢と、保護者には希望を与えている。
第10回	加藤 篤	NPO法人代表理事	トイレに対する社会の認識の低さに警鐘をならし、災害時の防災トイレ計画や、身近な小学校のトイレなど、トイレからの社会改善に向けた活動に取り組む。
第11回	横山 太郎	緩和ケア内科医	中高生に介護施設や緩和ケア病棟などを実体験させ、「10年後の未来を考える」をテーマに超高齢社会を学ばせる。
第12回	白石 祥和	非営利特定活動法人With優代表	不登校や引きこもりの青少年が学びそして働ける場所を提供している。

(4)「ユースリーダー支援賞・団体」……若者の持つ才能を見出し、守り、伸ばす事で次世代の社会的リーダーを育成している優れた団体・企業		
第1回	(財)日本サッカー協会「JFAこころのプロジェクト」	プロサッカー選手などアスリートによる、子供たちのための「夢の教室」を主催。
第1回	日本ガーディアン・エンジェルス	防犯パトロールなど青少年の健全な育成に寄与
第3回	NPOかものはしプロジェクト	カンボジアでの児童買収防止活動に大きな成果。
第3回	アクセントチャリティ CC推進室	若年層のためのCSR活動に全社あげて取り組んでいる。
第4回	NPO7'リッジフォースマイル	児童養護施設退所後の青少年の自立を援ける活動に取り組む。
第4回	NPOスターパワー	トップアスリートによる社会貢献活動を推進。アスリートと地域・子供たちをコーディネート。
第5回	チャリティーサンタ	ボランティアの大人たちがサンタクローズになってチャリティ活動を行う。日本のみならず世界の貧しい子供たちへ夢を届けている。
第5回	まちの保育園	子どもたちを、保育士だけで育てるのではなく、地域ボランティアによる多種多様な大人たちが保育にかかわる取り組みを実践。
第6回	大嶽部屋	エジプト出身の大相撲力士・大砂嵐の入門を受入れ、部屋を挙げて異文化の違いに正面から挑戦し、見事、関取に育て上げた。
第7回	STUDY FOR TWO	勉強したいと願うすべての子供たちが勉強できる世界、を理念に掲げ、自らのアイディアで、途上国の子供たちのための支援活動を実践。
第8回	NPO法人ACE	「児童労働に反対するグローバルマーチ」を日本で実施するために団体を立ち上げ、児童労働の根絶や教育環境の改善に尽力している。
第9回	(株)リパネス	「科学技術の発展と地球貢献を実現する」という理念のもと、小中学校への出前実験教室などを実践。ベンチャー育成にも力を注ぐ。
第10回	障がい者支援施設こころみ学園／ココファームワイナリー	知的障がいを持った人たちとブドウ畑でワイン造りを始めて50年。2000年の九州沖縄サミットや、2008年の洞爺湖サミットでも採用された。
第11回	NPO法人アジア人文文化交流促進協会	日本に住む定住外国人が直面する様々な困難を解決し、日本の社会での「文化共生」を実現するために活動している。
第12回	いちほの会	一時保護所を子どもたちが安心できる場所にと関係者が集い改善を目指している。

(5)「実行委員会特別賞」		
第12回	中川 花乃	ガン患者のいる家庭の子どもたちの心の支援をアートで実現しようと活動している。